

エーアイエルエス

AILS[®] 検査結果指導ガイド (第4版)

監修：医師／医学博士 山門 實
(日本内科学会 総合内科専門医)

目次

- 1 エーアイエルエス AILS[®] 検査とは
- 2 AILS (脳心疾患リスク) の意味について
- 3 AILS (脳心疾患リスク) の各ランクに対する指導コメント
- 4 AILS (脳心疾患リスク) と脳心血管イベントのリスク因子との関連について
- 5 AILS (脳心疾患リスク) 値が高値となる疾患・所見について
- 6 AILS (糖尿病リスク) の意味について
- 7 AILS (糖尿病リスク) の各ランクに対する指導コメント
- 8 AILS (糖尿病リスク) と空腹時血糖値や HbA1c との関係について
- 9 AILS (糖尿病リスク) 値が高値となる疾患・所見について
- 10 AILS (アミノ酸レベル) の意味について
- 11 AILS (アミノ酸レベル) の各評価に対する指導コメント
- 12 AILS (認知機能低下) の意味について
- 13 AILS (認知機能低下) の各ランクに対する指導コメント
- 14 AILS (認知機能低下) と他の認知機能関連検査との関係について
- 15 AILS (認知機能低下) 値が高値となる疾患・所見について
- 16 エーアイエルエス AILS[®] の検査結果に基づく生活習慣改善タイプについて
- 17 脳心血管疾患の方 (医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方) が受診された場合について
- 18 糖尿病の方 (医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方) が受診された場合について
- 19 認知症、軽度認知障害の方 (いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方) が受診された場合について
- 20 エーアイエルエス AILS[®] 検査対象外となる方について
- 21 AILS (認知機能低下) 検査対象外となる方について
- 22 検査前の薬剤の服用について
- 23 検査前の飲食について
- 24 検査前の運動について
- 25 検査の時間帯について
- 26 参考資料

1 エーアイエルエス AILS[®] 検査とは

エーアイエルエス

AILS[®] 検査は、10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスクを評価する AILS (脳心疾患リスク)、4年以内に糖尿病を発症するリスクを評価する AILS (糖尿病リスク)、大切な栄養素である必須・準必須アミノ酸が血液中で低下していないかを評価する AILS (アミノ酸レベル) と、現在認知機能が低下している可能性を評価する AILS (認知機能低下) の4種類の検査項目があります。

2 AILS (脳心疾患リスク) の意味について

- AILS (脳心疾患リスク) は、血液中のアミノ酸濃度バランスからみた10年以内の脳心血管イベント (次に記すイベントを含む。脳卒中：脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、心筋梗塞：心筋梗塞、冠動脈インターベンション (PCI) (大動脈解離は除く)) の発症リスクを統計学的に評価します。リスクとは、確率、可能性、危険性などと呼ばれているもので、10年以内に必ず脳心血管イベントを発症するか否かを診断するものではありません。AILS (脳心疾患リスク) は10年以内に脳心血管イベントを発症するリスクを0.0～10.0の数値 (AILS (脳心疾患リスク) 値) で報告します。この数値が高いほど10年以内に脳心血管イベントを発症するリスクが高くなります。
- AILS (脳心疾患リスク) では特異度95%と特異度40%のときの AILS (脳心疾患リスク) 値を使い、リスクを3つのランクに分けて表示します。ランクA、ランクB、ランクCの順でリスクが高くなります。

3 AILS (脳心疾患リスク) の各ランクに対する指導コメント

AILS (脳心疾患リスク)	指導コメント
ランクA	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスクは低いと考えられます。その他の検査結果も参考にし、これまで通り、生活習慣に気をつけてください。
ランクB	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスクが、「ランクA」に対して、約4倍高くなります。生活習慣病の罹患の有無やその他の検査結果も参考にし、生活習慣を見なおしてください※。
ランクC	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスクが、「ランクA」に対して、約11倍高くなります。生活習慣病の罹患の有無やその他の検査結果も参考にし、生活習慣を改善してください※。また、必要に応じて精密検査の受診や専門医の受診もお勧めします。

※ 生活習慣の見なおしにあたっては、エーアイエルエス 補助資料「エーアイエルエス AILS[®] 生活改善ガイド」もご参照ください。
既にほかの疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください

AILS (脳心疾患リスク) は、生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、毎年受診することをお勧めします。

4 AILS(脳心疾患リスク)と脳心血管イベントのリスク因子との関連について

AILS(脳心疾患リスク)と脳心血管イベントリスク因子との関係については下表および特定保健指導の内容を参考にご指導ください。

(血圧)

至適血圧または正常血圧(収縮期血圧130mmHg未滿かつ拡張期血圧85mmHg未滿)に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランクA	これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランクB	10年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の見なおしをお勧めしてください。
ランクC	10年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の改善を指導してください。また、必要に応じて精密検査や専門医の受診もお勧めしてください。

正常高値血圧(収縮期血圧130mmHg以上140mmHg未滿もしくは拡張期血圧85mmHg以上90mmHg未滿)に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランクA	正常高値血圧の場合に実施している指導などをお勧めします。
ランクB	正常高値血圧の場合に実施している指導などを行ってください。
ランクC	正常高値血圧の場合に実施している指導などを積極的に行ってください。

高血圧(収縮期血圧140mmHg以上もしくは拡張期血圧90mmHg以上)に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランクA	専門医の受診をお勧めしてください。
ランクB	
ランクC	

(脂質異常症-LDL-) (空腹時採血)

正常域(LDLコレステロール120mg/dL未滿)に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランクA	これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランクB	10年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の見なおしをお勧めしてください。
ランクC	10年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の改善を指導してください。また、必要に応じて精密検査や専門医の受診もお勧めしてください。

境界域 (LDL コレステロール 120mg/dL 以上 140mg/dL 未満) に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	境界域の場合に実施している指導などをお勧めします。
ランク B	境界域の場合に実施している指導などを行ってください。
ランク C	境界域の場合に実施している指導などを積極的に行ってください。

高 LDL コレステロール (LDL コレステロール 140mg/dL 以上) に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	専門医の受診をお勧めしてください。
ランク B	
ランク C	

(脂質異常症 -HDL、TG-) (空腹時採血)

HDL コレステロール 40mg/dL 以上もしくは TG 150mg/dL 未満に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランク B	10 年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の見なおしをお勧めしてください。
ランク C	10 年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の改善を指導してください。また、必要に応じて精密検査や専門医の受診もお勧めしてください。

低 HDL コレステロール (HDL コレステロール 40mg/dL 未満)、もしくは高 TG (TG 150mg/dL 以上) に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	専門医の受診をお勧めしてください。
ランク B	
ランク C	

(糖尿病 - 血糖値、HbA1c-) (空腹時採血)

正常型 (血糖値 110mg/dL 未満) かつ HbA1c 6.0% 未満に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランク B	10 年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の見直しをお勧めしてください。
ランク C	10 年以内の脳心血管イベント発症リスクがありますので、生活習慣の改善を指導してください。また、必要に応じて精密検査や専門医の受診もお勧めしてください。

境界型 (血糖値 110mg/dL 以上 126mg/dL 未満) もしくは HbA1c 6.0% 以上 6.5% 未満に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	境界型の場合に実施している指導などをお勧めします。
ランク B	境界型の場合に実施している指導などを行ってください。
ランク C	境界型の場合に実施している指導などを積極的に行ってください。

糖尿病型 (血糖値 126mg/dL 以上 もしくは HbA1c 6.5% 以上) に該当する方

AILS (脳心疾患リスク)	指導内容
ランク A	専門医の受診をお勧めしてください。
ランク B	
ランク C	

5 AILS (脳心疾患リスク) 値が高値となる疾患・所見について

脳心血管イベントの発症との関連が報告されている以下の疾患・所見については、ランク B、ランク C を示す割合が高いことが、知られています。したがって、以下の疾患・所見の場合にも「^{エーアイエルエス}⑩ AILS[®] の検査結果に基づく生活習慣改善タイプについて」を参考に生活指導を行い、定期的な^{エーアイエルエス} AILS[®] の受診を勧めてください。

AILS (脳心疾患リスク) が高値となる疾患・所見

- ・ 高血圧症
- ・ 脂質異常症
- ・ 糖尿病
- ・ メタボリックシンドローム
- ・ 内臓脂肪型肥満
- ・ 脂肪肝
- ・ 肝機能異常
- ・ 高尿酸血症
- ・ 食後高血糖

6 AILS (糖尿病リスク) の意味について

- AILS (糖尿病リスク) は、血液中のアミノ酸濃度バランスからみた 4 年以内の糖尿病発症のリスクを統計学的に評価します。リスクとは、確率、可能性、危険性などと呼ばれているもので、4 年以内に必ず糖尿病を発症するか否かを診断するものではありません。AILS (糖尿病リスク) は、4 年以内に糖尿病を発症するリスクを 0.0 ~ 10.0 の数値 (AILS (糖尿病リスク) 値) で報告します。この数値が高いほど 4 年以内に糖尿病を発症するリスクが高くなります。
- AILS (糖尿病リスク) は、リスクを特異度 80% と特異度 40% のときの AILS (糖尿病リスク) 値を使って、3 つのランクに分けて表示します。ランク A、ランク B、ランク C の順でリスクが高くなります。

7 AILS (糖尿病リスク) の各ランクに対する指導コメント

AILS (糖尿病リスク)	指導コメント
ランク A	4 年以内に糖尿病を発症するリスクは低いと考えられます。 その他の検査結果も参考にし、これまで通り、生活習慣に気をつけてください。
ランク B	4 年以内に糖尿病を発症するリスクが、ランク A に対して、約 8 倍高くなります。 生活習慣病の罹患の有無や空腹時血糖、HbA1c などの検査結果も参考にし、生活習慣を見なおしてください※。
ランク C	4 年以内に糖尿病を発症するリスクが、ランク A に対して、約 17 倍高くなります。 生活習慣病の罹患の有無や空腹時血糖、HbA1c などの検査結果も参考にし、生活習慣を改善してください※。

※ 生活習慣の見なおしにあたっては AILS^{エーアイエルエス} 補助資料「AILS^{エーアイエルエス} 生活改善ガイド」もご参照ください。
既にほかの疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください。

AILS (糖尿病リスク) 検査は、生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、毎年受診することをお勧めします。

8 AILS(糖尿病リスク)と空腹時血糖値やHbA1cとの関係について

AILS(糖尿病リスク)と空腹時血糖値やHbA1cの基準値との関係については下表を参考に指導してください。

正常型(空腹時血糖値 110mg/dL 未満)かつHbA1c 6.0%未満に該当する方

AILS (糖尿病リスク)	4年以内糖尿病発症者の中での各ランクの割合	指導内容
ランク A	0%	これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランク B*1	36%	4年以内の糖尿病発症リスクがありますので、生活習慣の見直しをお勧めしてください。
ランク C*1	64%	4年以内の糖尿病発症リスクがありますので、生活習慣の改善を指導してください。

*1 AILS(糖尿病リスク)がランク B またはランク C で、空腹時血糖値が正常型かつHbA1cが6.0%未満であった場合：AILS(糖尿病リスク)は4年以内に糖尿病を発症するリスクを統計学的に評価します。空腹時血糖値が正常型かつHbA1cが6.0%未満で4年以内に糖尿病を発症した人のうち、ランク B は36%、ランク C は64%であることが分かっています。

境界型(空腹時血糖値 110mg/dL 以上126mg/dL 未満)もしくはHbA1c 6.0以上6.5%未満に該当する方

AILS (糖尿病リスク)	4年以内糖尿病発症者の中での各ランクの割合	指導内容
ランク A*2	3%	境界型の場合に実施される指導などをお勧めします。
ランク B	47%	境界型の場合に実施される指導などを行ってください。
ランク C	50%	境界型の場合に実施される指導などを積極的に行ってください。

*2 AILS(糖尿病リスク)がランク A で、空腹時血糖値が境界型もしくはHbA1cが6.0%以上6.5%未満であった場合：AILS(糖尿病リスク)は4年以内に糖尿病を発症するリスクを統計学的に評価します。境界型かどうかを直接調べるものではありません。空腹時血糖値が境界型もしくはHbA1cが6.0%以上6.5%未満で、4年以内に糖尿病を発症した人のうち、ランク A は3%であることが分かっています。

糖尿病型(空腹時血糖値 126mg/dL 以上もしくはHbA1c 6.5%以上)に該当する方

AILS (糖尿病リスク)	4年以内糖尿病発症者の中での各ランクの割合	指導内容
ランク A*3	9%	専門医の受診をお勧めしてください。
ランク B	44%	
ランク C	48%	

*3 AILS(糖尿病リスク)がランク A で、空腹時血糖値もしくはHbA1cが糖尿病型であった場合：AILS(糖尿病リスク)は4年以内に糖尿病を発症するリスクを統計学的に評価します。現在の糖尿病発症の有無を直接調べるものではありません。空腹時血糖値もしくはHbA1cが糖尿病型で、4年以内に糖尿病を発症した人のうち、ランク A は9%であることが分かっています。

9 AILS (糖尿病リスク) 値が高値となる疾患・所見について

糖尿病発症との関連が報告されている以下の疾患・所見については、ランク B、ランク C を示す割合が高いことが知られています。したがって、以下の疾患・所見の場合にも「⑩^{エーアイエルエス} AILS[®] の検査結果に基づく生活習慣改善タイプについて」を参考に生活指導を行い、定期的な^{エーアイエルエス} AILS[®] の受診を勧めてください。

AILS (糖尿病リスク) が高値となる疾患・所見

- ・ 食後高血糖
- ・ 高血圧
- ・ 脂質異常症
- ・ メタボリックシンドローム
- ・ 内臓脂肪型肥満
- ・ 脂肪肝
- ・ 肝機能異常
- ・ 高尿酸血症

10 AILS (アミノ酸レベル) の意味について

- AILS (アミノ酸レベル) は、血液中の必須・準必須アミノ酸濃度が低下していないかを評価します。
- AILS (アミノ酸レベル) では、スレオニン、バリン、イソロイシン、ロイシン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、ヒスチジン、メチオニンの9種類の必須アミノ酸濃度並びに準必須アミノ酸であるアルギニンの濃度をそれぞれ偏差値化(0.0～100.0の数値)し、その中で、最も低い偏差値が AILS (アミノ酸レベル) の値となります。
- この数値が低いほど、血液中のいずれかの必須・準必須アミノ酸濃度が低い値であることを意味します。 AILS (アミノ酸レベル) が 30.0 以上であれば「通常」、30.0 未満では「低い」と分類されます。
- AILS (アミノ酸レベル) の検査は血液中の必須・準必須アミノ酸濃度が低いかどうかを評価します。 AILS (アミノ酸レベル) が「低い」場合、たんぱく質栄養不良や貧血、免疫低下・炎症亢進と関連があることが分かっています。 AILS (アミノ酸レベル) は栄養状態を広く評価するものではありません。また、五大栄養素のバランスや、食事摂取状況からみた栄養状態を評価するものでもありません。

11 AILS (アミノ酸レベル) の各評価に対する指導コメント

AILS (アミノ酸レベル)	指導コメント
通常 (30.0 以上)	血液中で低い必須・準必須アミノ酸はありません。これまで通り、生活習慣に気をつけてください。
低い (30.0 未満)	血液中で低い必須・準必須アミノ酸があります。たんぱく質摂取量が少ないと、血液中の必須・準必須アミノ酸濃度が低くなる場合があります。その他の検査結果も参考にして、生活習慣を見なおしてください*。

* 生活習慣の見なおしにあたっては、エーアイエルエス AILS[®] 補助資料「エーアイエルエス AILS[®] 生活改善ガイド」もご参照ください。

既にほかの疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください。

AILS (アミノ酸レベル) 検査は、生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、毎年受診することをお勧めします。

12 AILS (認知機能低下) の意味について

- AILS (認知機能低下) は、血液中のアミノ酸濃度バランスからみた現在認知機能が低下している可能性を統計学的に評価します。軽度認知障害や認知症を確定診断するものではありません。AILS (認知機能低下) は、0.0 ~ 10.0 の数値 (AILS (認知機能低下) 値) で報告します。この数値が高いほど、現在認知機能が低下している可能性が高くなります。
- AILS (認知機能低下) は、特異度 90% と特異度 60% の時の AILS (認知機能低下) 値を使って、現在認知機能が低下している可能性を 3 つのランクに分けて表示します。ランク A、ランク B、ランク C の順で現在認知機能が低下している可能性が高くなります。

13 AILS (認知機能低下) の各ランクに対する指導コメント

AILS (認知機能低下)	指導コメント
ランク A	<p>現在認知機能が低下している方は、認知機能が低下していない方に比べて、0.5 倍ランク A になりやすくなっています。(現在認知機能が低下していない方は、現在認知機能が低下している方に比べて、2 倍ランク A になりやすくなっています。)</p> <p>ランク A の方は、ランク B、C の方に比べて、現在認知機能が低下している可能性は低いと考えられます。その他の検査結果も参考にし、これまで通り、生活習慣に気をつけてください。</p>
ランク B	<p>現在認知機能が低下している方は、認知機能が低下していない方に比べて、1.3 倍ランク B になりやすくなっています。</p> <p>ランク B の方は、ランク A の方に比べて現在認知機能が低下している可能性が高いと考えられます。生活習慣病の罹患の有無やその他の検査結果も参考にし、生活習慣を見なおしてください※。</p>
ランク C	<p>現在認知機能が低下している方は、認知機能が低下していない方に比べて、3.0 倍ランク C になりやすくなっています。</p> <p>ランク C の方は、ランク A、B の方に比べて現在認知機能が低下している可能性が高いと考えられます。生活習慣病の罹患の有無やその他の検査結果も参考にし、生活習慣を改善してください※。</p>

※ 生活習慣の見なおしにあたっては、AILS^{エーアイエルエス} 補助資料「AILS^{エーアイエルエス} 生活改善ガイド」や、国立長寿医療研究センター (<https://www.ncgg.go.jp/>) で実施されている長期縦断疫学研究 (NILS-LSA : National Institute for Longevity Science-Longevity Study of Aging) の調査結果 (<https://www.ncgg.go.jp/cgss/department/ep/documents/pamph2010.pdf>) もご参照ください。

既にほかの疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください。

AILS (認知機能低下) は、生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、毎年受診することをお勧めします。

14 AILS(認知機能低下)と他の認知機能関連検査との関係について

AILS(認知機能低下)と他の認知機能関連検査との関係については、下表を参考にご指導ください。

(他の認知機能関連検査 (MMSE、MoCA-J、脳画像検査など))

軽度認知障害 (MCI) 疑い、認知症疑いの所見が無かった方

AILS (認知機能低下)	指導内容
ランク A	他の認知機能関連検査の結果では、所見は認められませんでした。血液中のアミノ酸濃度バランスから見ても、現在認知機能が低下している可能性は低いと考えられます。その他の検査結果も参考にし、これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランク B	他の認知機能関連検査の結果では、所見は認められませんでした。血液中のアミノ酸濃度バランスから見ると、現在認知機能が低下している可能性も否定できませんので、生活習慣の見直しをお勧めしてください。
ランク C	他の認知機能関連検査の結果では、所見は認められませんでした。血液中のアミノ酸濃度バランスから見ると、現在認知機能が低下している可能性も否定できませんので、生活習慣の改善を指導してください。

軽度認知障害 (MCI) 疑い、認知症疑いの所見があった方、あるいは軽度認知障害 (MCI)、認知症と診断された方

AILS (認知機能低下)	指導内容
ランク A	専門医の受診をお勧めしてください。
ランク B	
ランク C	

(ApoE 遺伝子検査)

ApoE ε 4 キャリアでない方

AILS (認知機能低下)	指導内容
ランク A	ランク A の方は、ランク B、C の方に比べて現在認知機能が低下している可能性が低いと考えられます。その他の検査結果も参考にし、これまで通り、生活習慣に気をつけるよう指導してください。
ランク B	ランク B の方は、ランク A の方に比べて現在認知機能が低下している可能性が高いと考えられますので、生活習慣の見直しをお勧めしてください。
ランク C	ランク C の方は、ランク A、B の方に比べて現在認知機能が低下している可能性が高いと考えられますので、生活習慣の改善を指導してください。

ApoE ε 4 キャリアの方

AILS (認知機能低下)	指導内容
ランク A	ApoE ε 4 キャリアの場合に実施している指導などをお勧めします。
ランク B	ApoE ε 4 キャリアの場合に実施している指導などを行ってください。
ランク C	ApoE ε 4 キャリアの場合に実施している指導などを積極的に行ってください。

15 AILS (認知機能低下) 値が高値となる疾患・所見について

認知機能低下との関連が報告されている以下の疾患・所見について、「ランク B」、「ランク C」を示す割合が高くなることが知られています。したがって、以下の疾患・所見の場合にも「^{エーアイエルエス}⑩ AILS[®] の検査結果に基づく生活習慣改善タイプについて」を参考に生活指導を行い、定期的な ^{エーアイエルエス} AILS[®] の受診を勧めてください。

AILS (認知機能低下) 値が高値となる疾患・所見

- ・ 食後高血糖
- ・ 高血圧
- ・ 高 LDL コレステロール血症
- ・ 高 non-HDL コレステロール血症
- ・ 内臓脂肪型肥満

エーアイエルエス

- AILS® では下図赤点線の箇所に検査結果に基づく生活習慣改善タイプを表示しています。



Eat Well, Live Well.
Ajinomoto

気づけば変わる、未来が広がる。
アミノインデックス® 生活習慣病リスクスクリーニング

エーアイエルエス
AILS® 結果報告書

ご自身の **① 検査結果** と、その結果に基づいた **② 生活習慣改善タイプ** をご確認ください。

① 検査結果

4年以内の糖尿病発症リスク

AILS(糖尿病リスク)値 9.2

※1 「ランクA(約251人のうち1人が4年以内に発症)」を1.0倍とした場合の発症リスク AILS(糖尿病リスク)値 0.0 5.0 8.0 10.0

ランクA(1.0倍)

ランクB(7.6倍)

ランクC(16.7倍)

低い ← 糖尿病を発症するリスク → 高い

あなたの糖尿病リスクは「**ランクC(16.7倍)**」です。

たんぱく質のもとになるアミノ酸レベル

AILS(アミノ酸レベル)値 15.0

※2 人間ドック受診者で「低い」または「通常」と分類される割合 AILS(アミノ酸レベル)値 0.0 30.0 100.0

低い(17%)

通常(83%)

低い ← たんぱく質のもとになるアミノ酸レベル → 高い

あなたのアミノ酸レベルは「**低い**」です。

現在認知機能が低下している可能性

この検査項目を選択された方のみ結果が印字されます

AILS(認知機能低下)値 8.5

※3 現在認知機能が低下している方が、認知機能が低下していない人に対して各ランクになる比率 AILS(認知機能低下)値 0.0 5.0 8.0 10.0

ランクA(0.5倍)

ランクB(1.3倍)

ランクC(3.0倍)

低い ← 認知機能低下の可能性 → 高い

あなたの認知機能低下の可能性は「**ランクC(3.0倍)**」です。

10年以内の脳卒中・心筋梗塞発症リスク

AILS(脳心疾患リスク)値 9.0

※4 「ランクA(約200人のうち1人が10年以内に発症)」を1.0倍とした場合の発症リスク AILS(脳心疾患リスク)値 0.0 5.0 8.0 10.0

ランクA(1.0倍)

ランクB(3.9倍)

ランクC(11.4倍)

低い ← 脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク → 高い

あなたの脳心疾患リスクは「**ランクC(11.4倍)**」です。

検査結果を正しく理解いただくために、お読みください。

- 評価対象者について**
AILSは右記の年齢の日本人を対象として開発された検査です。これ以外の年齢の方も検査結果が印字されますが、いずれも評価対象外となります。

検査項目	対象年齢
AILS(脳心疾患リスク)	30歳~74歳
AILS(糖尿病リスク)	20歳~80歳
AILS(アミノ酸レベル)	50歳~100歳

- AILS評価対象疾病・所見の方の検査結果に関して**
AILSの評価対象疾病、所見(認知症含む)の診断を医療機関にて受けた方、あるいは治療中の方の場合、その疾病、所見に関するAILS値や生活習慣改善タイプが印字されますが、いずれも評価対象外となります。
- 偽陰性・偽陽性の可能性について**
AILSは、リスクが高いグループに属するかを評価するリスクスクリーニング検査です。一般的な検査同様に、偽陽性(陽性判定だが実際は陰性ではない)、偽陰性(陰性判定だが実際は陰性ではない)が出る場合があります。
- AILSの検査結果の判断について**
個人の検査結果に関する「結果の解釈」については医師にご相談ください。

② 生活習慣改善タイプ

AILS(糖尿病リスク)	ランクA	ランクB	ランクC
通常	タイプI	タイプII	タイプIII
AILS(アミノ酸レベル)	タイプII	タイプIII	* *

※監修:医師/医学博士 山内 寛(日本内科学会 総合内科専門医)

あなたの生活習慣改善タイプは **タイプIV** * です。

AILS(認知機能低下)の検査結果が「ランクB」または「ランクC」の場合は、「*」マークが印字され、「ランクA」の場合は空欄になります。また、AILS(認知機能低下)の検査を選択していない場合は、斜線「/」が印字されます。

- 生活習慣改善タイプとは**
AILS(糖尿病リスク)、AILS(アミノ酸レベル)の検査結果に基づいたタイプと、AILS(認知機能低下)の検査結果より生活習慣改善タイプが印字されます。

「AILS・生活改善ガイド」に、タイプ別のアドバイスを掲載しています。ぜひご覧ください。





食生活や運動習慣などお役立ち情報が盛りだくさん

今回の検査結果や検査内容に関するさらに詳しい情報はこちら!

アミノインデックス® 受診者サイト

https://aminoindex.jp/after/

スマートフォンやタブレットはこちらから



※画面はイメージです。

14

- 検査結果に基づく生活習慣改善タイプで記載されている内容の意味は下図のとおりです。

検査結果に基づく生活習慣改善タイプについて

あなたの検査結果分類の場所に「●」が印字されます。
 AILS(認知機能低下)が「ランクB」または「ランクC」の場合、「*」のマークが並べて印字されます。

AILS(糖尿病リスク)		ランクA	ランクB	ランクC
AILS(アミノ酸レベル)	通常	タイプI		タイプII
	低い		タイプIII	タイプIV ●*

監修:医師/医学博士 山門 真(日本内科学会 総合内科専門医)

あなたの生活習慣改善タイプは **タイプIV** 認知 ***** です。

AILS(認知機能低下)の検査結果が「ランクB」または「ランクC」の場合は、「*」マークが印字され、「ランクA」の場合は空欄になります。また、AILS(認知機能低下)の検査を選択していない場合は、斜線「/」が印字されます。

あなたのAILS(認知機能低下)の検査結果が「ランクB」または「ランクC」の場合、「*」のマークがつきます。AILS(認知機能低下)を選択していない場合は、この欄に斜線「/」が印字されます。

AILS(糖尿病リスク)とAILS(アミノ酸レベル)の検査結果に基づき、タイプI、II、III、IVのいずれかを表示します。

タイプIの方	AILS(糖尿病リスク):「ランクA」 AILS(アミノ酸レベル):「通常」	タイプIIの方	AILS(糖尿病リスク):「ランクB」または「ランクC」 AILS(アミノ酸レベル):「通常」
タイプIIIの方	AILS(糖尿病リスク):「ランクA」 AILS(アミノ酸レベル):「低い」	タイプIVの方	AILS(糖尿病リスク):「ランクB」または「ランクC」 AILS(アミノ酸レベル):「低い」

- エーアイエルエス[®] AILS[®] では AILS(糖尿病リスク)と AILS(アミノ酸レベル)の結果をもとに、6象限内に「●」印をプロット(下図参照)し、AILS(糖尿病リスク)の「ランクA」と「ランクB・C」の2つに分け、AILS(アミノ酸レベル)の「通常」と「低い」と組み合わせて4タイプ(タイプI、タイプII、タイプIII、タイプIV)に分類します。
- さらに、AILS(認知機能低下)の「ランクA」と「ランクB・C」の2つにわけ、「ランクB・C」の場合に「●」印の横に「*」印をプロットし、合計8タイプに分類します。

AILS(糖尿病リスク)		ランクA	ランクB	ランクC
AILS(アミノ酸レベル)	通常	タイプI		タイプII
	低い	タイプIII		タイプIV ●*

- 結果に従って、下表を参考に、食習慣・運動習慣・喫煙習慣を見なおすよう指導してください。併せて AILS[®] 補助資料「エアイエールエス AILS[®] エアイエールエス 生活改善ガイド」も参照してください。
- ※既に他の疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください。

生活習慣改善 タイプ	指導の考え方
I	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な生活習慣に関する情報
I*	<ul style="list-style-type: none"> バランスの取れた食事 (肉、魚、卵、牛乳、大豆食品、海藻、いも、果物、緑黄色野菜を毎日とるよう心がける) 良質なたんぱく質の摂取 有酸素運動などの運動 禁煙
II	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病発症を予防するために、BMI 25kg/m² 以上の方はカロリー摂取の適正化 食物繊維を多くとること(穀類の摂取の工夫など) 有酸素運動などの運動 禁煙
II*	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病発症を予防するために、BMI 25kg/m² 以上の方はカロリー摂取の適正化 食物繊維を多くとること(穀類の摂取の工夫など) バランスの取れた食事 (肉、魚、卵、牛乳、大豆食品、海藻、いも、果物、緑黄色野菜を毎日とるよう心がける) 良質なたんぱく質の摂取 有酸素運動などの運動 禁煙
III	<ul style="list-style-type: none"> 筋力低下予防のために、良質なたんぱく質の摂取 筋力トレーニングなどの運動
III*	<ul style="list-style-type: none"> 筋力低下および認知機能低下予防のために、良質なたんぱく質の摂取 バランスの取れた食事 (肉、魚、卵、牛乳、大豆食品、海藻、いも、果物、緑黄色野菜を毎日とるよう心がける) 有酸素運動、筋力トレーニングなどの運動 禁煙
IV	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病発症を予防するために、BMI 25kg/m² 以上の方はカロリー摂取の適正化 食物繊維を多くとること(穀類の摂取の工夫など) 筋力低下予防のために、良質なたんぱく質の摂取 有酸素運動、筋力トレーニングなどの運動 禁煙
IV*	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病発症を予防するために、BMI 25kg/m² 以上の方はカロリー摂取の適正化 食物繊維を多くとること(穀類の摂取の工夫など) バランスの取れた食事 (肉、魚、卵、牛乳、大豆食品、海藻、いも、果物、緑黄色野菜を毎日とるよう心がける) 筋力低下および認知機能低下予防のために、良質なたんぱく質の摂取 有酸素運動、筋力トレーニングなどの運動 禁煙

- AILS(糖尿病リスク)、AILS(アミノ酸レベル)、AILS(認知機能低下)で分類された8タイプ(タイプI、タイプI*、タイプII、タイプII*、タイプIII、タイプIII*、タイプIV、タイプIV*)に加え、下表のAILS(脳心疾患リスク)で分類された2つのカテゴリーに沿った指導の考え方を参考に、食習慣・運動習慣・喫煙習慣を見なおすよう指導してください。併せて^{エーアイエルエス}AILS[®]補助資料「^{エーアイエルエス}AILS[®]生活習慣改善ガイド」も参照してください。

※既にほかの疾患等で生活習慣に対する指導をされている場合には、そちらを優先してください

ランク	指導の考え方
ランクA	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣改善タイプI, I*, II, II*, III, III*, IV, IV* の指導の考え方を参照
ランクB または ランクC	<p>(生活習慣改善タイプI, I*, II, II*, III, III*, IV, IV* の指導の考え方に追加して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中、心筋梗塞を予防するため、ナトリウム(塩分)を控える ・禁煙する

脳心血管疾患の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）が受診された場合について

- AILS（脳心疾患リスク）について

現在脳心血管疾患の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）は評価対象外となります。AILS（脳心疾患リスク）値やランク評価、生活習慣改善タイプについて、結果は出力されますが、いずれも参考値となります。

- AILS（糖尿病リスク）について

現在脳心血管疾患の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「⑦ AILS（糖尿病リスク）の各ランクに対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

- AILS（アミノ酸レベル）について

現在脳心血管疾患の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「⑩ AILS（アミノ酸レベル）の各評価に対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

- AILS（認知機能低下）について

現在脳心血管疾患の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「⑬ AILS（認知機能低下）の各ランクに対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

糖尿病の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方） が受診された場合について

- AILS（脳心疾患リスク）について

糖尿病の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「③ AILS（脳心疾患リスク）の各ランクに対する指導コメント」を参考に、指導してください。

- AILS（糖尿病リスク）について

糖尿病の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）は評価対象外となります。AILS（糖尿病リスク）値やランク評価、生活習慣改善タイプについて、結果は出力されますがいずれも評価対象外となります。

- AILS（アミノ酸レベル）について

糖尿病の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「⑪ AILS（アミノ酸レベル）の各評価区分に対する指導コメント」を参考に、指導してください。

- AILS（認知機能低下）について

糖尿病の方（医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方）も評価対象となります。結果に応じて「⑬ AILS（認知機能低下）の各ランクに対する指導コメント」を参考に、指導してください。

軽度認知障害、認知症の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)が受診された場合について

- AILS (脳心疾患リスク) について

軽度認知障害、認知症の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)も評価対象となります。結果に応じて「③ AILS (脳心疾患リスク) の各ランクに対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

- AILS (糖尿病リスク) について

軽度認知障害、認知症の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)も評価対象となります。結果に応じて「⑦ AILS (糖尿病リスク) の各ランクに対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

- AILS (アミノ酸レベル) について

軽度認知障害、認知症の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)も評価対象となります。結果に応じて「⑪ AILS (アミノ酸レベル) の各評価区分に対する指導コメント」を参考にして、指導してください。

- AILS (認知機能低下) について

軽度認知障害、認知症の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)は評価対象外となります。AILS (認知機能低下) 値やランク評価、生活習慣改善タイプについて、結果は出力されますが、いずれも参考値となります。

以下に該当する方は、AILS[®] の検査対象外となります。

1) 妊娠されている方

妊娠されている場合、血漿中のアミノ酸濃度は全般的に低濃度になり、検査結果に影響を与えることがわかっていますので、妊娠されている方は検査対象外となります。

2) 授乳中の方

授乳期間中は、アミノ酸濃度が変動することが知られており、検査結果に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

3) がん患者（治療中を含む）の方

がん患者の方は、アミノ酸濃度が変動することが知られており、検査結果に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

4) 先天性代謝異常の方

先天性代謝異常の方は、特定のアミノ酸濃度が大きく変動することが知られており、検査結果に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

5) 透析患者の方

透析患者の方は、透析の影響でアミノ酸濃度が変化することが知られており、検査結果に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

49歳以下の方は、認知機能が低下していない場合でも、AILS(認知機能低下)がランクCになる割合が高くなるため、AILS(認知機能低下)の検査対象外となります。

22 検査前の薬剤の服用について

薬剤の検査結果に及ぼす影響はわかっておりません。

当日の服薬については、主治医あるいは健診施設の医師からの指示に従ってください。

23 検査前の飲食について

検査前 8 時間以内に、水以外（食事、サプリメント等）は摂らないように指導してください。

なお、検査前日の夕食も高タンパク質の食事は避けるように指導してください。

24 検査前の運動について

正しい検査結果を得るために、検査当日朝の運動は控えていただくように指導してください。

25 検査の時間帯について

午前中に採血してください。

26 参考資料

- ・ 糖尿病診療ガイドライン 2019
- ・ 日本人の食事摂取基準（2020 年版）
- ・ 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版
- ・ 認知症疾患診療ガイドライン 2017

